

図書室の陽だまりに子ら本囲み

としょえもん

一学校図書館サポートだより 第3号 (通巻15号)

たゆみなく、しかし確かな足取りで～読書活動の推進を目指す取組み～

学校図書館サポート事業がスタートした平成22年4月に、八王子市教育委員会では「読書活動推進委員会 研究報告書」を作成しています。その中で、今後の取組み課題として次の三点を挙げました。

「①子どもたちの読書習慣づくりは、身近に本があり、思わず本を手に取りたくなる環境づくりである。②学校図書館に人がいることは、子どもに読書の習慣を身に付けさせるのに役立つ。③読書は生涯学習の基本となる。学校は学校図書館の整備を進めるだけでなく、公共図書館との連携を図ることが大切である。」

このスタートラインの視点から、今日まで読書活動推進に取り組んできました。また、八王子市教育委員会では、毎年市の取り組みを自己評価し(右表)、改善の方向性を検討しています。たゆみなく、しかし確かな足取りで、各校の読書活動をこれからも支えていきたいと考えています。

施策展開の方向	I 一人ひとりの「生きる力」を育成する							
基本施策	(2) 豊かな心を育む教育の推進							
具体的施策	7 読書活動の推進							
目的	小・中学校の教育課程に読書活動を位置づけ、推進を図ることで、自主的に読書活動を行う意欲や態度を養い、日常生活の中で自然に読書に親しみ、豊かな人間性を育む。また、学校図書館の充実及び児童・生徒の学校図書館活用の活性化を図る。							
平成24年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の読書活動や図書を活用した調べ学習を充実させ、学校図書館の活用について意識啓発をし、児童・生徒の確かな学力や豊かな心を育成するための研修や実践の紹介を行う。 ○ 学校図書館サポーターによる学校への支援を継続し、各学校に対して学校図書館の運営に関する理解を促進させ読書活動の充実を図る。 ○ 市の図書館図書を効果的に活用できるよう、学校図書館サポート事業担当と市の図書館との打ち合わせを充実させていく。 							
平成24年度の取組と自己評価	自己評価	24	A	23	A	22	A	A:よい結果が得られた B:達成できた C:一部が未達成であった D:達成できなかった
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 司書教諭研修会・読書指導員研修会・パワーアップ研修会を計画的に実施し、学校図書館の運営や環境整備、中央図書館との連携方法等について研修対象者に理解啓発を図った。読書指導員の増加や司書教諭、読書指導員それぞれの役割について理解が浸透した。 ○ 学校図書館サポーターが重点校を巡回し、学校への支援を行った。また、全小・中学校に配置した学校図書館読書指導員が、各学校において図書館を活用した授業や学級における読み聞かせなどの読書活動を行った。このほか、学校図書館サポート事業の重点校以外の学校への支援として、教育センターを会場とした相談日を設けたり、学校を訪問したりして希望する学校への支援を行えるようにした。 ○ 学校図書館サポーター(読書推進担当)を小・中学校17校に派遣し、学校の図書館運営の支援を行った。学校図書館運営について学校の理解が深まり、各校の読書活動の充実及び学校図書館活用年間計画の作成につながっている。 ○ 平成23年度に導入した検索システムについて、全校を対象とした研修を行ったほか、背ラベルの貼り替え作業を行い学校図書館の環境を整備した。市の図書館を含めた蔵書の活用に関する意識啓発を学校に対して行った。 ○ 中央図書館と連携を図り研修会を実施した。今後も継続的な連携を図り、学校と市の図書館をつなげ、各学校の学習活動や読書活動の充実につなげることが大切である。【施策No.35:生涯学習の支援と学習機会の充実 関連】 							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館サポーターの効果的な活用方法について検証し、各学校の学校図書館運営に関する意識の向上を更に図る。 ○ 各学校の学校図書館活用年間計画の作成についての理解を促進し、学校図書館の計画的な利用を推進することで、児童・生徒の主体的な学習活動や読書活動の充実につなげる。 ○ 各学校の図書館整備のための検証を行い、今後の市としての方向性を明確にする。 							
データ集	【67頁】学校図書館読書指導員登録者数							

※『教育に関する事務の管理および執行の点検及び評価の報告書(平成24年度分)』から一部転載。(全体は市のホームページに掲載されています。)

平成25年度 研修会報告

第2回読書指導員研修会 実技講習11月6日(水)

講座 「修理の基本ABC」

今回も午前・午後の2回の講習を実施し、合わせて66名の読書指導員・図書ボランティアの方の参加がありました。研修会での修理講習も様々な形で回数を重ねてきましたので経験者の方が多いのかなと思っておりました。しかし、研修参加は初めてという方が多く、読書指導員・図書ボランティアの方も新しい方が支援に加わっておられることが感じられてうれしく思いました。

講師は学校図書館担当のサポーターと読書推進担当サポーターが担当し、小グループに分かれて実技実習を行いました。参加された皆さんからは、「分かりやすい内容でためになりました」、「何でも修理と思っていましたが見極めも大切と聞き、考え直しました」、「修理のたびに迷っていたことが解決できました」等の感想をいただきました。



お互いの作品を鑑賞する受講者の皆さん



講座 「本の世界を広げよう ～本の紹介カード作り～」

おすすめ本リストをはじめ、ポップや帯など本の紹介には、子どもたちを読書へと誘うとても大事な役割があります。今回ははめ込み式の紹介カード作りを試みました。これはスタンドの形なので、本が借りられたらカードを裏返して「貸し出し中」と表示できるところが工夫のポイントです。

75分たっぷり使ってカード作りに取り組みました。2作目に挑戦する方も多く、カードの内容とスタンドの装飾がバランスよくレイアウトできるよう創意を凝らしていました。こうして出来上がった作品をズラリと並べて鑑賞し合いました。

一口に本の紹介といっても、光の当て方によってその本の魅力の引き出し方はいろいろあるなど、参加された皆さんの率直な感想がありました。

第3回 司書教諭研修会

11月18日(月) 教育センター大会議室

講演「絵本で伝えたい いのちのかたち」講師 画家・絵本作家 いせ ひでこ 先生

今年の7月に出版された絵本『最初の質問』(詩・長田弘 絵・いせひでこ 講談社刊)は、こんな書き出しで始まります。

今日、あなたは空を見上げましたか。／ 空は遠かったですか、近かったですか。

雲はどんなかたちをしていましたか。／ 風はどんな匂いがしましたか。

いせ先生は、長田さんの詩の原稿を手にしてから絵を描き始めるまで、構想に2年間を要したということです。第2連の詩句には、黄色い雨靴をはいた女の子が風に吹かれながら、地面の水溜りに見入っている絵が添えてあります。この絵には、水溜りに映し込まれた空の深さに驚き、魅了された幼い頃のいせ先生自身の記憶が描かれているのです。全篇49行の詩に13葉の絵が添えられていますが、これらの絵には、いせ先生のこれまでの人生のすべてが込められていると言ってもいいのでしょうか。絵本作家の絵に込める想いのその奥行きを、改めて考えさせられました。

いせ先生は、画家として絵本作家としてたくさんの作品制作の傍ら、全国を飛び回って講演や子供たちとのワークショップ活動にも精力的にかかわってこられています。1.17後の神戸や3.11後の東北の現地を訪れたときは、「人の暮らしが奪われたところは到底描けるものではない」との感慨を抱かれたそうです。常に写真ではなくスケッチを心がけられている画家の眼をも背けさせる惨状とともに、いせ先生の「いのちのかたち」に寄せるただならぬ姿勢がうかがわれるお話でした。

『最初の質問』の最後のページに絵はなく、ただ次の2行で締めくくられています。

時代は言葉をないがしろにしているー / あなたは言葉を信じていますか。



学校図書館活用重点校紹介 ～ その3



平成25年度重点校20校の図書館を順番に紹介しています。

第九小学校			<p>左:おすすめの本にポップカードを添えました。読書指導員研修会の講習で紹介したものです。右:絵本棚に見出しが入りました。黄色い『E』ラベルもボランティアの皆さんで貼り直し、きれいに並んでいます。</p>
高倉小学校			<p>左:今年度より始まった図書ボランティア活動。絵本の整理、並べ替えが終わり、文学の背ラベルを貼りかえ作業中。右:冬のおすすめ本と季節の装飾が目を引くガラスケース。早速立ち止って覗き込む子どもたちです。</p>
元八王子小学校			<p>左:二部屋に分かれて混在していた、読み物と調べ学習用図書を整理。すっきりした棚の上にはおすすめの本とカードの展示。右:廃棄本を利用した見出し作りの様子。黄色の紙で包み目立つように工夫をしました。</p>
川口小学校			<p>左:図書委員とボランティアの共同作業で本の並べ直しをしました。右:だんだんきれいになる学校図書館。子どもたちに読んでほしい本を先生方も紹介しています。</p>
由木中学校			<p>左:ボランティアの皆さんの協力で分類番号に沿った並べ方に直した後、仕切り板を入れ、見出し表示も作りました。右:図書委員会がおすすめする図書室の50冊、POPカードも添えられています。</p>

10月16日(水)愛宕小学校・国語科校内研究授業で、先生と協働する読書推進サポーターの姿がありました。3年生の授業では、「生き物のとくちょうを説明しよう」というねらいで学習しました。事前学習から、児童が調べるテーマに適した図書資料の用意、授業での目次や索引の利用指導、発見メモカードの記入にいたるまでかかわります。子どもたちの興味・関心、探究心を引き出す『調べる学習』。サポーターの活躍が先生方や子どもたちの学習の幅をさらに広げています。



本が好き！

表紙の利用は出版社の許諾済です



このコーナーでは毎回本の紹介をしています。今回は研修会の内容にそった参考図書と学校図書館サポーター（読書推進担当）からのおすすめ本です。ぜひ読んでみてくださいね。

『飾れる！使える！

たのしい季節の切り紙』

どりむ社編/PHP出版社

カードに添えたり壁面装飾のデザインに応用したりと使い道の多い本です。子どもでもできるやさしいものから、手の込んだ切り紙まで、さまざまな場面で活躍するのではないのでしょうか。



『ちいさくてかわいい手づくりの本』

美篤堂 著/グラフィック社

紙を切りはなして、カットしたり、折ったり、束ねたりしていくうちに、数枚の紙が本になる楽しさが味わえます。図書館では人気の本こそ傷みも激しいもの、本の仕組みが分かるとどんな修理も怖いものなしです。

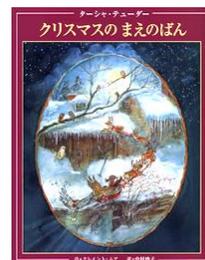
学校図書館の窓から～

『クリスマスのまえのぼん』

詩：クレメント・ムア

絵：ターシャ・テューダー

訳：中村妙子 偕成社



暖炉の火も消え、寝静まった家の中。父親がふと目をさまし外を見ると雪景色の空に、そりに乗ったサンタの姿が…。

クリスマス前夜の雰囲気のみごとに描かれ、陽気な小人のサンタが楽しさを盛り上げます。クリスマスシーズンに限らず開きたくなる美しい本です。この作品は様々な絵で数種類出版されています。本屋さんで読み比べ、お気に入りの一冊を選ぶのも楽しいと思います。どうぞ楽しいクリスマスをお過ごしください。

(O：第八小・宇津木台小・清水小・石川中担当)

図書館へGO！ 《いせひでこさん特集》

絵本は幼い子どもだけのものではありません。司書教諭研修会で紹介された本の中から選りすぐりの2冊をご紹介します。

■『旅する絵描き—パリからの手紙』 (平凡社、2007年刊)

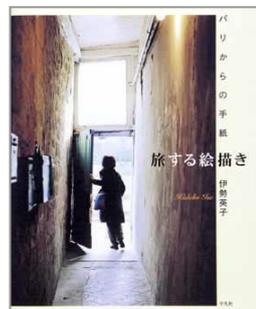
中学校国語教科書2年（光村図書）にも取り上げられている作品です。

友人のYに宛てた手紙のかたちで、語りかけるように綴られています。絵本『ルリユールおじさん』にも登場する樹齢400年のアカシアの木や、工房のおじさんなど、いせさんがパリで出会った人や物も美しく描かれ、絵描きでなくともパリに行ってみたくなることでしょう。

教科書の作品を、原作でたっぷり味わって下さい。

■『チェロの木』 (偕成社、2013年刊)

いせさんは13歳の時からチェロを習っていたそうです。楽器職人という父親の仕事、5月になって完成したクリスマスプレゼントのチェロ。音色が聞こえてきそうな本でもあります。『ルリユールおじさん』、『大きな木のような人』（講談社）、『まつり』（講談社）が「木の三部作」といわれるそうですが、いせさんの「木」に寄せる思いを強く感じる一冊です。



八王子市教育委員会学校教育部指導課

学校図書館担当（教育センター内）

平成25年度第3号
12月20日発行
(通巻15号)

連絡先 電話 042-664-1135 / FAX 042-662-2988
住所 八王子市散田町 2-37-1
e-mail b301400@city.hachioji.tokyo.jp